

第 71 回日本災害医学会セミナーを開催しました（2018/6/30）

テーマ：災害医療、トリアージ、病院での多数傷病者受け入れ
場所：南三陸病院・総合ケアセンター南三陸（宮城県南三陸町）

2018年6月30日(土)、南三陸病院・総合ケアセンター南三陸において、災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教が第 71 回日本災害医学会セミナーを開催しました。日本災害医学会セミナーは、災害医療に携わるあらゆる職種を対象に災害医療の基礎知識と技術の習得を目的とするいわば「災害医療に関する入門コース」です。2017年10月の第68回 東北大コース（佐々木助教開催）に引き続き、今回は東日本大震災の被災地、南三陸町にある南三陸病院の協力を得て同地にて開催しました。

南三陸病院（旧公立志津川病院）は2011年の東日本大震災で津波が4階フロアまで到達し、病院としての機能を喪失しました。2011年4月に仮設診療所を開設、同年6月に登米市米山町のよねやま診療所の一部建物を借用する形で入院機能を再開、そして2015年12月に現在の南三陸病院が開院しました。

今回のセミナーは被災地、南三陸での開催ということもあり、定員の32名をはるかに超える43名の受講生、21名のインストラクターが参加しました。はじめに災害医療の基礎を講義で学んだ後、トリアージ法、病院での多数傷病者受け入れを実技や机上シミュレーションを通して学習しました。災害医療国際協力学分野の江川新一教授がインストラクターとして、災害放射線医学分野の稲葉洋平助教が受講生として参加しました。

南三陸病院に全国から人が集まるのは震災以降初めてのことで伺いました。過去に大きく被災した町で、未来に向けた災害医療のセミナーを開催できたことはとても意義深く、東北地方の知見を新しい世代、未災地に伝えるためにこれからも本セミナーを継続して開催します。



座学で災害医療の基礎を学ぶ



START 法トリアージを指導する江川教授



従命反応を評価する稲葉助教



最後に全員笑顔で記念撮影